

平成 27 年度第 1 回 新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会 議事録要旨

日 時：平成 27 年 6 月 11 日（木）午前 11：30 時から

会 場：新潟市美術館 講堂

出席者：

（委員）会長	宮田 亮平	東京藝術大学学長
	大島 煦美子	公益財団法人 新潟県女性財団理事長
	菅井甚右エ門・哲	書人
	野川 彰夫	前 新潟市立江南小学校校長
	福永 治	広島市現代美術館館長
	石黒 香奈子	公募委員
	坂上 義興	公募委員

（事務局）

新潟市美術館	塩田 純一	新潟市美術館長
	加藤 正人	同 副館長
	松沢 寿重	同 主幹（学芸係長）
	高橋 良子	同 総務係長
	荒井 直美	同 主査（学芸員）
	藤井 素彦	同 主査（学芸員）
	山岸 亜友美	同 （学芸員）
新潟市新津美術館	横山 秀樹	新潟市新津美術館長
	高橋 努	同 副館長
	大森 慎子	同 主幹（学芸員）
	小林 一吉	同 主査（学芸員）
	長島 彩音	同 （学芸員）

次第：

- 1 部長挨拶 新潟市文化スポーツ部長 長井 亮一
- 2 開会挨拶 新潟市美術館長 塩田 純一
- 3 出席者紹介
 - （1）委員紹介
 - （2）事務局紹介

4 報告

新潟市美術館の改修工事について

5 議事

平成26年度 新潟市美術館及び新潟市新津美術館の事業報告について

6 閉会挨拶

新潟市新津美術館長

横山 秀樹

1 部長挨拶

本日は両館の平成26年度の事業について報告する。忌憚のないご意見を賜りたい。この後、報告するが、ご覧のとおり、新潟市美術館は昨年度からのリニューアル工事が順調に進み、来月18日にリニューアルオープンを迎える。併せて開館30周年ということで、リバプール国立美術館のラファエル前派展を開催する。より市民に開かれた美術館を目指し活動していきたい。

また、日・中・韓の3か国がそれぞれ代表都市を選び、文化・芸術を通じた交流を行う「東アジア文化都市」という国家間事業で、今年新潟市が日本側の代表都市に選定され、さまざまな交流事業を展開している。新津美術館で中国、韓国の陶磁展を秋に開催する。北方文化博物館とも連携を取りながらの開催となる。また、宮田学長のご提唱により、2013年に披露いただいた「わたしは未来」の合唱交流もこの夏に開催する。ゲストには新潟市出身で宝塚月組の組長であった越乃リュウさん、作曲・作詞された夢枕獏さん、芸大の副学長がいらっしゃるので、お時間があればお越しいただきたい。そのほか、書の交流、舞踊の交流、プロジェクションマッピングの国際大会なども計画している。

今後も皆様のご指導、ご鞭撻を仰ぎながら、新潟市を文化・芸術でますます元気に盛り上げていきたい。

2 開会挨拶

新潟市美術館の改修工事が終わり、リニューアルオープンは7月19日だが、それに先立ち、新装になった美術館をご覧いただくことをうれしく思う。オープンまであと1か月、館員一同、準備作業を進めている。

昨年度の事業報告について、新潟市美術館は昨年の下半期から改修工事のため休館に入っているため、半年分のご報告となる。忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

3 出席者紹介

事務局より、委員を紹介。事務局の出席者を紹介。

4 報告

新潟市美術館の改修工事について

(塩田館長より報告)

改修工事については昨年度の協議会でご案内したが、今日は3点に絞ってお話したい。

改修工事の最大のポイントは、開館30年を経て老朽化した部分の改修である。例えば電気関係設備の交換あるいは空調設備の拡充、屋上の防水といったハードの部分で、外から見てもほとんど分からないが、美術品を展示し、安全に保管していくという美術館の機能を考えたときに真っ先に整備しなければならない事項ということで優先した。また、この美術館は前川國男という日本の近代建築をリードした巨匠の最晩年の作品であることにもう少し光をあてたいと考え、基本的な部分は前川事務所の構想のとおり復元した。また、小さなスペースだが前川コーナーを設けて、前川國男の実績を顕彰していきたい。

この美術館はクラシカルなよさがある一方、重苦しいところもあり、それをどうしたらいいかということで、サインを一新した。ロゴとシンボルマークをデザインした服部一成さんにお話し、サイン計画を全部見直した。白いフレームを壁に直接打ちつけ、フレームの中に表示が出るという、非常に独創的なアイデアをいただいた。クラシックな建築に新しい息吹が吹き込まれたような思いがしている。建築とデザインのコラボレーションということで、大きな一石を投じることになったと考えている。

もう1点が、市民の皆さんに気軽に来ていただき、くつろげる場を作るということ。例えば1階の受付は、エントランスを入ってすぐのところから、少し奥まったところに移動させた。入ってすぐチェックをするという管理的な印象を少し改められたと思う。かつての図書室は普段鍵が閉まっていてすぐに利用できなかったが、扉を取り払い、「ラウンジN」と称し、お客様が自由に飲食でき、ちょっとしたトークやワークショップができるようなスペースにした。かわって、講堂の隣に図書コーナーを移し、開架で自由に美術書をご覧いただけるスペースにした。この講堂の床もリノリウムにしたことで、ワークショップや作家の公開制作などが展開できると思っている。

市民の皆様にとって、美術館がよりいきいきとしたものになり、来館者の皆さんがお互いにつながり広がっていく場になればと祈っている。

(宮田会長)

7月19日リニューアルオープンには、どんなイベントをされるのか。

(塩田館長)

イギリス・リバプール美術館のコレクションの「ラファエル前派展」と、常設展示室では新潟市美術館の30年の歴史を振り返る展示をする。30年前の建築の記録写真、30年間の企画展のポスター、今回、コラボレーションしていただいた服部さんと前川國男さんの資料類の展示、コレクションの歴史を皆さんに見ていただきたい。

(大島委員)

オープニングセレモニーみたいなものはあるのか。

(塩田館長)

オープニングセレモニーは7月18日の午後にやる。

(長井文化スポーツ部長)

先ほど説明の「ラファエル前派展」の開場式と一緒にお披露目する。

(塩田館長)

メディア関係を迎えて7月1日にプレス発表をやる。そこに、公募で募集した20人の一般市民の方を招待し、まだ作品が並んでいない空っぽの美術館をリニューアルオープンに先立ってご覧いただく。また、8月のお盆の時期に夜間開館を行う。1週間だが、ミニコンサートや講演会のシリーズなどを考えている。

(宮田会長)

開館にあわせて1か月間くらいは開館のアピールをやってもらいたい。周知をどのようにやるかも皆で考えてほしい。楽しみである。

都の美術館のリニューアルオープンも参考にするとよい。都美(とび)館なので「とびらプロジェクト」ということで、フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」がきたのにあわせて、ボランティアの人たちにブルーのターバンを巻いてもらった。開館のときにお金をかけずにプライドを持って、リニューアルされたものを世の中にアピールができた。

(坂上委員)

市民の方20人を公募ということだが、もっと大勢に来てもらったらいいのではないか。

(塩田館長)

大勢の方から応募いただき、抽選で20名にさせていただいた。リニューアルオープンは7月19日なので、7月1日は事前の広報の一環ということで考えている。

(宮田会長)

プレオープンのためのチラシのようなものは。

(塩田館長)

今作っているところである。案内状は発送している。

(菅井委員)

リニューアルオープンについて、市の美術協会との関係は何か考えているか。

(塩田館長)

6月の総会のときにアピールしたいと思っている。

5 議事

平成26年度 新潟市美術館及び新潟市新津美術館の事業報告について

資料1～4とパワーポイントにより事務局から説明。

(大島委員)

学芸員の研修事業、新潟市外の学芸員との交流や、ここに定まりすぎないようにしながら自身のエンパワーメントにつなげるために定期的にやっていることはあるか。

(塩田館長)

新潟市美術館では年間の研修計画を立てている。外部の研修では、一昨年、星野学芸員が1年半にわたり文化庁の美術学芸課で文化財行政に関する研修を受けてきた。改修工事後、文化財や国宝の展示も視野に入れつつ、その分野に関するトレーニング、実務も含めて体験してきた。また、昨年、山岸学芸員が国立新美術館で2か月間、主に広報活動、教育普及活動について研修を受けた。特に大規模な企画展、海外展も含めた実務について研修してきた。そのほか、毎年、定期的に作品保存のための研修、著作権の研修などに数日間ずつ派遣している。研修活動は人材育成という点で将来的に実を結ぶと期待している。

(横山館長)

新津美術館は学芸員の数が少なく、一人欠けると運営できない状況もあり、新潟市美術館のように外で長期間にわたって研修を受けることはないが、保存関係や著作権の研修会は毎年必ず参加している。昨年度は、教育普及の、ミュージアム・エデュケーター研修を受けた。文化庁がやっている学芸員の長期の研修会、重要文化財の取り扱いの研修会に毎年応募するのだが外れてしまう。市美術館は一人出しているが、県立美術館、博物館が優先されるのが残念なところである。新潟県博物館協議会で毎年やっている研修会には必ず参加して、県内各館と交流を深めている。

(大島委員)

物事の基本はやはり人である。人材育成は本当に大事な部分だと思う。今、それぞれ頑張っているのを聞き安心した。はじめは新潟市美術館と新津美術館の学芸員同士の密なる交流なので、国関係や他で長期の研修等を受けてきたことを伝達することも大事ではないかと思う。

(福永委員)

美術館を預かる人間として、次の世代の育成はものすごく大事なことで、両館ともいろいろな機会をとらえて取り組んでいると思う。研修そのものも大事だが、研修の中で他館と交流したり、もう1泊2泊していろいろな展覧会を見てくることもいいことだと思う。学芸員にとって見ること、人と話をするのはすごく大事なことである。

(宮田会長)

学芸員同士の交流というのは、人の交流と同時に物の交流にもつながっている。「あの作品を貸してよ」と言ったときの対応にもつながる。

(福永委員)

電話1本でそういうことができるように、日ごろからの交流が大事だと思うので、ぜひそういう機会を作ってもらいたい。

(宮田会長)

気になった点は、先ほどパワーポイントの説明の中で寄贈と寄託があったが、寄贈に関しては問題ないが、寄託が税金逃れの隠れ蓑にならないよう気をつけてもらいたい。

(石黒委員)

個人的には暗くて重い新潟市美術館が大好きなのだが、先ほど見たお手洗いなどがすごくきれいになって喜んでいる。今はどこの商業施設も大きく広くて明るくてきれいで、そういうものに慣れてしまっているので、お手洗いが小さくて暗いとそれだけで印象が決まってしまう。建物が心に与える影響と直結している。どこへ行っても色がきらびやかにはん濫しているので、隠れ家のように新潟市美術館に休憩しに来ていた。個人的にはあまりポップになりすぎないことを望んでいるが、スタイリッシュなデザインと、もともとのクラシックな感じが素敵になるといいなと思い、楽しみにしている。

(坂上委員)

今日の会場に報道席がある。このような機会をとらえて、PRについて、ぜひ報道と一緒にタグを組んでいただきたい。

私はいろいろな展覧会の案内や情報を目を皿のようにして見ている。今、新潟市内だと「市報にいがた」で催し物案内があるが、例えば展覧会案内の欄をカラーにしたり、ゴシックにしたりして、とにかくほかよりも目立たせないといけない。それがひいては鑑賞者の増にもつながるのではないか。

(塩田館長)

今回、新潟日報さんからご協力いただいて、今週の「週間ふむふむ」に新潟市美術館が載った。一月くらい前にちびっこ記者たちが、改修工事が終わった新潟市美術館に取材に来て、バックヤードも含めあちこち回ってもらったが、けっこう大きな記事で掲載された。子どもたちを通じて浸透していくという意味で、とても意義深いことだったと思っている。

(宮田会長)

子どもたちや女性をどうつかむかというのは大きい。

(野川委員)

学校向けの教育普及事業について、両館とも事業を進めていることはとてもよい。小学生は親が芸術家でなければほとんど、中学生は美術教室でしか、そういった世界について知らないが、この事業では、新潟の作家が来て作品制作を見たり、あるいは活動することで、学校では絶対に出会えない人や物に出会うことができる。参加する学校の数や体験する人たちは限られるが、手を挙げた学校の、特に美術関係の先生とその学年にとっては、響くものがたくさんある。それには、何年もこの事業を続けたいといけませんが、私は教育普及事業はとても大事だと思う。美術館へ関心を持つかどうかは、小学生、中学生がスタートになっている。美術の先生以外の、美術の作家や関係者の話を聞いたり、作品を見るという機会を、ぜひ作ってもらいたい。

また、ここで活動する学校があったら、10分くらい長くって全館を見せるなどして、子どもたちにも美術館が新しくなったことを周知するのはいいことだと思う。

(宮田会長)

今、野川委員から攻めのお話をいただいた。館が大きくなうねりを作っていくことが、とても大きな発展につながると思う。

(菅井委員)

前回の会議で大倉委員がおっしゃっていたが、地域密着という言葉があり、美術館も地域と関係している。そういう点からすると、地元の作家の、今、生きている人の展覧会を市でも1回やったし、県でもやった。今、生きている人の展覧会もそろそろ考えてもいいのではないかと思う。人選はなかなか大変だろうが、人数はあまり絞らないでやったらどうか。いつまで経っても過去形で動いているのはどうかという気がする。

(宮田会長)

これはすごい勇気がいる。身内の話になるが、新潟県立近代美術館と東京国立近代美術館の両方で、生きているうちに個展をやらせていただいた。それも一つのきっかけになってい

るので、ぜひとも勇気を持ってやるということがあってもよいと思う。

(福永委員)

できれば積極的に新しい人を取り上げていきたいが、公立の館なので、バランス、顔ぶれ、選択という点で、公明正大というのはなかなか難しいところがあり、みんな苦勞している。新潟市美術館は新しい若い作家の展覧会をしたりいろいろ工夫しているが、直球ど真ん中ではできないところがあるので、そういう意味では苦しみがあるのだろうと思う。しかし菅井委員のおっしゃったことはよく分かるし、心がけていかなければいけないことだと思う。

(宮田会長)

一つヒントは、数を入れることによって、集中を薄めることができる。

(福永委員)

感想も二つ申し上げたい。協議会のプレゼンテーションといい、資料の形といい、両館が努力してここまできたと感じている。全国的に市町村合併で同じ市の中に二つ、三つの美術館があるようなところが出てきた。その中で、新潟のモデルが一つできたのではないかと感じた。

二つ目は、改修工事をしたということで、会議前にロビーなどを見学した。私どもの美術館も開館して 26 年でそろそろ改修時期にきており、市へは要望しているが、予算もなくなかなかうまくいかない。まず優先するのは空調、電気などのハードだが、改修の具合が目に見えないこともあり、そういう意味では同じ苦勞を持っていると思う。今回、限られた予算の中でも工夫し、サイン類などのポイントをうまく使って改修されたと思う。参考に、どれくらいの予算か教えていただきたい。

(加藤副館長)

今回の改修工事は約 7 億円で実施している。

(福永委員)

広島市は部分的な改修を数年にわたって繰り返すというやり方をしているが、スケジュールなどに支障が出てきて、いつ展覧会ができるのか、予算がつくのか分からないということになるので、このように一定期間で集中してやるのはすごくいい。市の協力、支援があったのだろうと思う。それもまた新潟の新しい方式で、他館の参考になるのではないかと。

(塩田館長)

今日は欠席されているが、降旗委員の目黒区美術館で、新潟市美術館のコレクション展を開催していただいた。改修工事で 8 か月程度休館するので、新潟市美術館のコレクションを

使ってくださいと、美術館の連合体の美術館連絡協議会に提案した。それで目黒区美術館に代表的な作品を出展したが、単に新潟市美術館のコレクションを展示するのではなく、草間彌生や阿部展也などの作家の作品を目黒区美術館でも持っているのです、それを並べて展示したことで、展示に幅が出た。予定の倍近い6,000人の来観者があったということで、新潟市美術館がこういうコレクションを持っていると首都圏の皆様にも紹介できた。

(福永委員)

私も観覧したが、大変よい展覧会だった。規模はそれほど大きくなかったが、両館の企画、考えがよくまとまっていると思った。新潟市美術館で見るのと目黒区美術館で見るのでは少し様子が違ったりして、新潟市美術館の学芸員にとっても、自分の館の作品を見直すチャンスになったのではないかと。そういう意味でもいい試みだったと思う。

(大島委員)

まだ確認していないのでお尋ねするが、トイレに折りたたみ式のおむつを替える台は取り付けられているのか。女性用だけか。このごろは父親も子どもを連れてくる。

(加藤副館長)

男女とも両方ある。

(大島委員)

美術の大好きな人で子育て中の人もたくさんいる。そういう人たちに、新潟市美術館なら安心だと思って頂ける環境整備の一つである。男性用トイレにも設置したことは素晴らしい。

6 閉会挨拶

(横山館長)

本日は両館の平成26年度の事業について貴重なご意見をいただき、お礼申し上げます。ご提案いただいたご意見等について、これからの運営に反映させたい。これからもご指導のほどよろしくお願いする。